

日程第2 議案第18号

熊谷市指定文化財候補の調査実施に係る熊谷市文化財保護審議会への諮問について

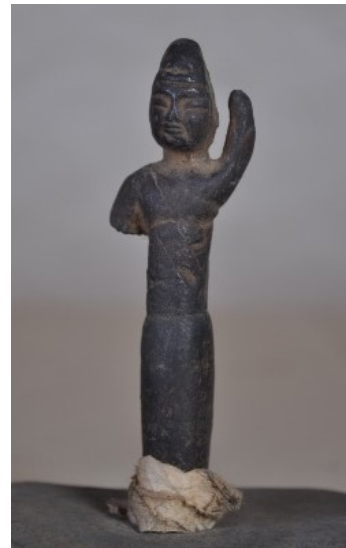
次に掲げる2つの物件が、熊谷市文化財保護条例第6条第1項に定める「市にとって重要なもの」として市文化財の指定が適当かについて、熊谷市文化財保護審議会に対し、市指定文化財候補として調査、審議することを諮問する。

1 市指定文化財候補1

- (1) 名称 銅造誕生釈迦仏立像
- (2) 種別・種類 有形文化財・彫刻
- (3) 所有者及び所在地 正蔵寺 熊谷市永井太田1054
- (4) 概要

像高8.92cm。鑄銅一鑄（台座、^{ほぞ}柄含む）。左手を挙げ、右手は地を指し直立する誕生釈迦仏（如来）で、市内では最古級の奈良時代（8世紀代）の作。一般的には、右手を挙げ、左手を垂下させ直立する姿に表される誕生釈迦仏（如来）にあって、本像は、左手で天を、右手で地を指す姿である。左手首先と右肩先を欠損する。

なお、本件については、市史編さん室による仏像調査がなされており、本市域のみならず埼玉県内においても希少であり、貴重かつ重要な資料であることから、指定の妥当性について調査を実施する。



2 市指定文化財候補2

- (1) 名称 木造阿弥陀如来坐像
- (2) 種別・種類 有形文化財・彫刻
- (3) 所有者及び所在地 大龍寺 熊谷市葛和田898
- (4) 概要

像高56.5cm。ヒノキ材の^{わりはぎづくり}割矧造。来迎印^{らいごういん}（上品下生印^{じょうほんげしょういん}）を結び、右足を上に結跏趺坐する^{むすび}平安時代（12世紀末頃）の作で、本堂に安置される本尊。肉髻^{にくせき}（頭部の盛り上がった部分）が丸く盛り上がり、螺髪^{らほつ}が整然と刻まれ、温和な顔かたちで、撫肩で猫背気味の体軀、彫りが浅く平行状に刻まれた着衣の衣文様^{ころももんよう}などが表現されている像。江戸時代の修理で、表面の漆箔の塗直し等を受けている。



なお、本件については、市史編さん室による仏像調査がなされており、本市域における平安時代の地方造仏界の実態を示す重要な資料であることから、指定の妥当性について調査を実施する。